

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		10/13 （10/6との比較）	10/13 （10/6との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	2.04% （▲0.09）	89.70円 （▲0.26%）	+3.7% 2017年2Q	1.00%	トルドー首相が米下院歳入委員会で演説。同国が米国の最大の貿易顧客であることを強調するも、NAFTA（北米自由貿易協定）再交渉の不透明な展開から、国債利回りは低下。カナダドルは対円で下落。	住宅関連指標などの発表を予定。NAFTA再交渉第4回会合が17日まで延長するも難航は必須。原産地規則などの着地点だけでなく、米国の金融政策などの動向も注意。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		
ブラジル 	BB	9.21% （+0.03）	35.55円 （▲0.42%）	+0.3% 2017年2Q	8.25%	小売売上高は市場予想を下回るも、対前年比では上昇。テメル大統領への訴追問題や年金改革に注目が集まるものの、特段進展は見当たらず。国債利回りは小幅上昇。レアルは対円で下落、対米ドルで上昇。	主な経済指標はなし。年金改革などに進展があるか注目。債券市場は中銀の緩和的な政策スタンスなどから堅調に推移すると見込むも、為替市場は政治的不透明感の残存などから上値の重い展開を想定。
	Ba2	 金利低下		 景気回復	 利下げ局面		
メキシコ 	A	7.02% （+0.14）	5.91円 （▲2.72%）	+1.8% 2017年2Q	7.00%	中銀が公表した議事録で、多くのメンバーが賃金からのインフレ上昇圧力は見られないと指摘し、CPI（消費者物価指数）がピークに達したと見解。NAFTA再交渉が難航し、ペソは対円で下落。国債利回りは上昇。	雇用統計などの発表を予定。前月に発生した地震の影響を踏まえ、市場では失業率の上昇を見込む。NAFTA再交渉や、国内政治動向に影響を受けやすく、債券・為替市場ともに下値を試す場面も想定。
	A3	 金利上昇		 景気安定	 利下げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

	格付 (※1)	債券 (※2)	為替 (対円)	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		10/13 (10/6との比較)	10/13 (10/6との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
オーストラリア 	AAA	2.79% (▲0.02)	88.18円 (+0.78%)	+1.8% 2017年2Q	1.50%	金融安定報告書では、高水準の債務を抱える家計にとって、金利上昇が打撃となる可能性があるとの警告。中国の貿易収支が好調だったことや低調な米CPIを受け、オーストラリアドルは対円で上昇。国債利回りは小幅低下。	中銀による議事録の公表や雇用統計などの発表を予定。為替市場は景気の緩やかな改善を背景に、来年の利上げを見込む動きがみられるものの、中銀による通貨高懸念がオーストラリアドルの上値を抑える展開を予想。
	Aaa	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		
ニュージーランド 	AA+	2.96% (+0.00)	80.31円 (+0.56%)	+2.5% 2017年2Q	1.75%	住宅販売の前年比マイナス幅が拡大し、製造業PMIや消費者信頼感指数も低下するなど経済指標は軟調。先月の総選挙を受けた連立交渉は継続中。ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りはほぼ横ばい。	CPIや隔週の乳製品入札結果の発表を予定。キャスティングボードを握る第3党は10月12日を期限としていた上位2党との連立交渉の結論を先週までに出しておらず、政治情勢を巡る不透明要因が残存する見込み。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.61% (▲0.02)	14.17円 (+0.81%)	+0.2% 2017年2Q	0.50%	CPIは市場予想をやや下回る水準。2018年予算案は、事前に予想されていた通り景気回復を受けて景気支援色を薄めた内容に。ノルウェークローネは対円で上昇。予算案が景気拡張的とならず、国債利回りは小幅低下。	貿易収支、住宅価格指数などの発表を予定。国会議員選挙と政府予算案の発表が波乱なく完了し、金融市場では今後の景気に影響を与える原油価格動向への注目が高まると予想。
	Aaa	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		

(出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成)

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		10/13 （10/6との比較）	10/13 （10/6との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BBB-	7.54% （▲0.12）	8.41円 （+1.98%）	+1.1% 2017年2Q	6.75%	製造業生産は市場予想に反してプラス成長。さえない経済指標を受けた主要国における金融政策正常化観測の後退から、ランドは対米ドル、対円でともに上昇。国債利回りは低下。	CPIなどの発表を予定。主要国における金融政策や地政学リスクが意識される地合いの中、同国内での政治的な緊張感の高まりも相まって、同国の債券・為替市場は変動率の高い展開を予想。
	Baa3	 金利上昇	 金利低下	 景気鈍化	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB-	6.24% （+0.05）	0.83円 （▲0.36%）	+5.0% 2017年2Q	4.25%	主要な経済指標の発表がない中、17日に国債入札を控えることや海外投資家の証券売買フローの純流出が続いたことなどを背景に、国債利回りは上昇。また市場の円高傾向を受けて、ルピアは対円で下落。	金融政策決定会合を予定。インフレ上昇圧力が弱まるも、海外投資家の証券売買フローが流出方向に偏ることやルピア安への圧力などを背景に、政策金利は据え置かれる見込み。17日の国債入札結果も注目される。
	Baa3	 金利低下	 金利低下	 景気拡大	 利下げ局面		
インド 	BBB-	6.67% （▲0.04）	1.73円 （+0.00%）	+5.7% 2017年2Q	6.00%	CPIは低下するも鉱工業生産は上昇するなど経済指標はまちまち。IMF（国際通貨基金）は同国の成長見通しを下方修正するも、今後上回る可能性もあり、国債利回りは低下。ルピーは対円で横ばい。	卸売物価などの発表を予定。債券・為替市場は国内改革により停滞した経済活動の再開を示す経済指標を受けて、底堅い展開を想定するものの、財政規律に対する懸念の高まりなどに対する政府の動向に注意。
	Baa3	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気回復	 据え置き局面		

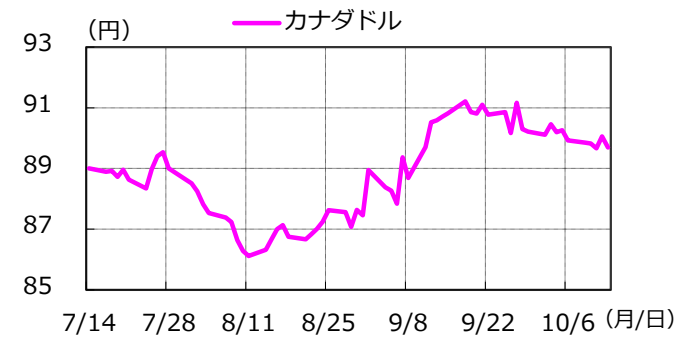
（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

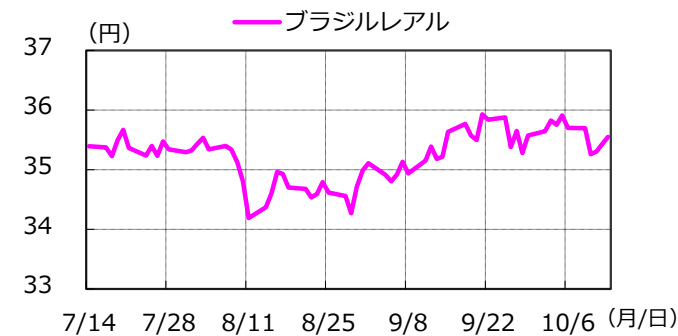
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/7/14～2017/10/13

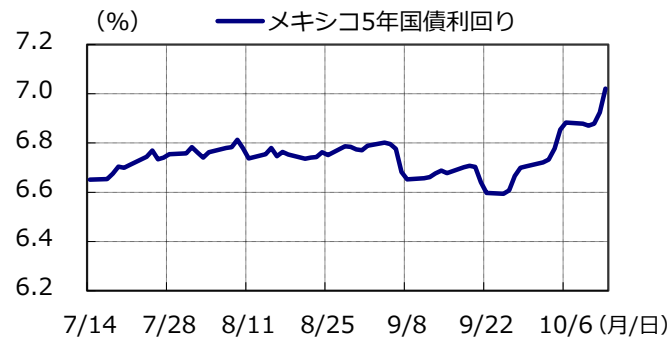
カナダ



ブラジル



メキシコ

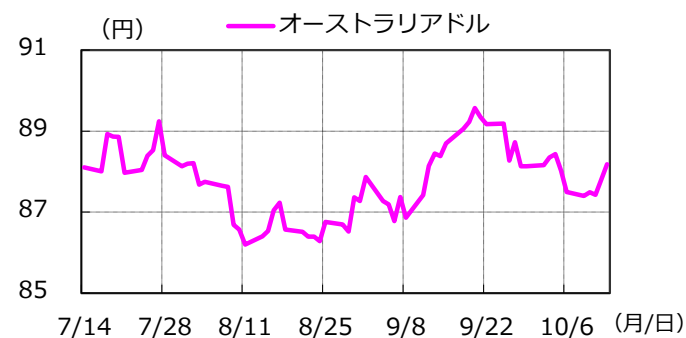


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

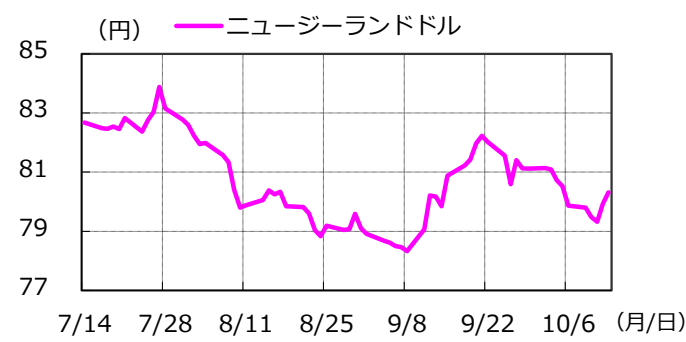
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/7/14～2017/10/13

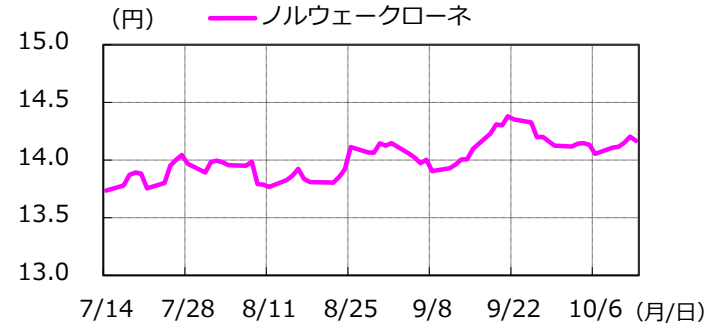
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー



※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

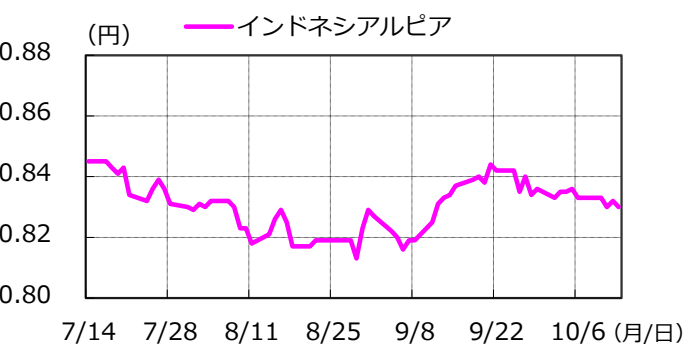
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/7/14～2017/10/13

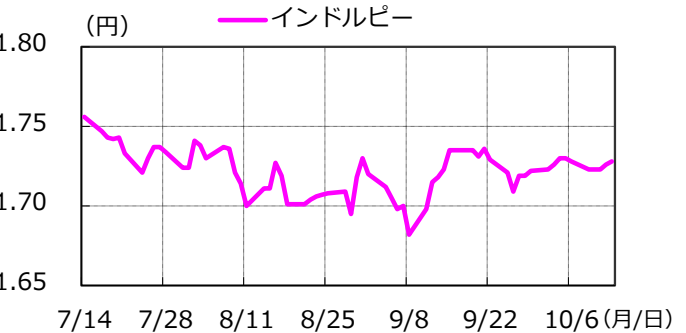
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。